

令和6年度 因島北認定こども園の取組

1 因島北認定子ども園教育・保育目標

「心も身体もたくましく健やかな園児の育成」

～安田式体育遊びを通して～

感じる・気付く力 うごく力 考える力 やりぬく力 人と関わる力

【めざすこども像】 主体を持って活動する子

2 各年齢の目標

年齢	目 標（数字は1の項目との関連）
0 歳児	○快適な環境に配慮し、安心して過ごせるようにする。 ○一人一人の生活リズムを大切にして、生理的欲求を促す。 ○特定の保育者との愛着関係のなかで、情緒の安定を図り、健やかな成長を育む。(1)(2)(3)(5)
1 歳児	○一人一人の甘えや欲求を十分満たし、ゆったりとしたかかわりのなかで安心して過ごせるようにする。 ○身の回りに対する興味や関心を大切にし、保健的で安全な環境のなかで、十分探索活動ができるようにする。 ○保育教諭が仲立ちとなって一緒に遊び、友だちとのつながりが楽しめるようにする。 ○保育教諭や友だちのまねをすることや、食事・着脱・排泄など身のまわりのことを自分でしようとする気持ちを大切にすること。(1)(2)(3)(5)
2 歳児	- 保育教諭に受容され、安定したかかわりのなかで自分を表現しながら、保育教諭や友だちをモデルとして育つ。 ○簡単な身の回りのこと（食事・排泄・着脱・睡眠など）が、自分でできる。 ○からだを使ってのあそびや表現することを楽しむ。 ○保育教諭を仲立ちとして、言葉のやりとりを楽しんだり友だちとかかわって遊ぶことを楽しむ。(1)(2)(3)(5)
3 歳児	○保育者との信頼関係をベースにして、集団生活の心地よさを感じる。 ○身の回りのことができるようになったことに喜び、自分でしようとする。 ○友だちと関わるなかで、相手の気持ちに気づいたり、一緒に遊ぶことの楽しさを知る。 ○生活に必要な言葉がある程度わかり、自分の思いや感じたことを言葉で伝えようとする。(1)(2)(3)(4)(5)
4 歳児	○身についた習慣を確かめながら、自分でできる喜びを持ち、生活していく。 ○認め合い励まし合うなど関わり合う関係を広げ、集団で行動することを楽しむ。 ○いろいろな活動を通して、経験したことや思っていることを聞いたり、話したりする。 ○生活や遊びを通して、達成感を味わい自信をもって行動する。(1)(2)(3)(4)(5)
5 歳児	○自分でできることの範囲を広げながら、基本的な生活習慣が身につく。 ○仲間の一人としての自覚をもち、意欲的・創造的に生活やあそびに取り組む。 ○豊かな感性が育ち、思いや言葉で表現したり、人の思いも考えながら行動する。 ○社会生活に必要な習慣や態度が身につき、主体的に行動する。(1)(2)(3)(4)(5)

3 評価項目の達成及び取り組み状況

A：十分達成されている B：達成されている C：取り組まれているが成果は十分でない D：取組が不十分である

	評価項目	内容	結果	説明
1 子どもの発達援助	① 発達援助の基本	○一人一人の園児の発達状況に配慮した指導計画を作成し、定期的に評価を行い、その結果に基づき指導計画の見直しを行う。(PDCAサイクル) ・学年での情報共有、振り返り	B	・学年での子どもの状況についての共有をして振り返りをするようにしてきた。支援の在り方について学年で話をすることを繰り返している。
	② 健康管理・食育	○一人一人の実態に応じた健康管理を行う。 ○食育年間計画を基に、意欲をもって食にかかわる経験を積み、食事を楽しむ子どもに育てる。 ・菜園活動 給食	B	・検温、子どもの表情、様子から体調を把握している。 ・食に楽しく関わられるように雰囲気づくり、状況に応じた量の加減、声掛けなどを続けている。 ・菜園活動も地域との交流と絡めた実施ができた。世話、収穫とクッキングに意欲的に取り組めるようさらに工夫したい。
	③ 教育・保育の環境と内容	○園児が楽しく遊びこめるように安心して安全に配慮した環境を整える。	A	・開閉式遮光テントの増設、1歳児保育室の環境構成等の整備を行った。 ・安全点検等で危険な箇所が見つかった際、速やかに対応してきた。 ・パーテーションや机の配置などを工夫して落ち着いて好きな遊びを楽しめるよう考えた。
		○園児が楽しく遊び主体的に活動できる環境構成の工夫をする。	B	(別紙参照)
		○園児一人一人を受容し理解を深めた働きかけや援助をする。	B	(別紙参照)
		○園児が楽しく熱中する安田式体育遊びを工夫する。	B ※	・「もっともっとたのしむディ」を設定した。 ・所・園・小・中の体育遊び交流会を実施した。(別紙参照)
		○地域との関わりを大事に楽しむ遊びを工夫する。	A	・もちつき、新年こども大会、菜園活動など、多くの方との関わりをもちながら楽しむことができた。その中で、触れ合うことや活動を共にする等を取り入れることができたことは大きな成果である。
2 小学校との連携	① 園・小連携、接続	○アプローチカリキュラムをもとに取組を進める。	B	・就学に向けて付けたい力を具体的に考えて取り組んだ。 ・子どもの育ちの長期的な見通しを持つことで、年長児以外の子どもの育ちも繋いでいきたい。
		○小学校との連携を通して子どもの成長を見据えスムーズな就学に向けて進める。	A	・計画的に連携を進めている。 ・因北校区連携プロジェクト会議において子どもの状況について話し合い、必要な取組や課題を実際の姿を通して話し、考えることができた。
3 子育て支援	① 保護者との信頼関係	○保護者との連携や情報交換を行いながら教育・保育に関する理解を得る。 ・保護者との話・連絡 ・通信	B	・保育業務支援システム「パピーナ」の導入により情報共有、連絡等をスムーズに行えるようになった。 (別紙参照)
	② 地域の子育て支援	○地域の子育て家庭への支援を行う。	B	・園庭開放に地域の方の協力を得てベビーマッサージを取り入れた。 ・子育て家庭への支援として何ができるか模索したい。
4 子どもの安全	① 危機管理	○事故や災害、不審者に適切に対応できる体制づくりを進める。 ○食中毒や感染症に対する予防や対策についてマニュアルに基づき適切に実施する。	B	・避難訓練、交通安全指導、保健衛生指導等を計画的に実施した。訓練等の内容については反省を生かしていききたい。 ・感染症予防に係る研修を講師を招聘して実施したことで、衛生的な環境整備を行うことができ、その必要性を考える機会となった。
5 運営管理	① 組織運営	○保育・教育目標に基づき、職員が意識統一のもとと協働する。 ・業務改善 ・職員間コミュニケーション	B	・職員会議・研修では付箋を活用して職員の思いを出し合う工夫をしていった。 ・時間の確保に難しさはあるが、学年で工夫して情報共有しながら日々の活動や個々の状況について考えることができたところもある。 ・勤怠システムの導入により、勤務時間に対する意識を高めることができてつつある。
	② サービス管理	○サービスに係る研修を充実させる。 ・ヒヤリハット ・職責と職務	B	・毎日のミーティングでヒヤリハットを出し合っている。 ・何に気を付けていくべきなのか、今後どうするか、具体的に話ができていないことがある。

4 第三者委員からの目標や計画の総合的な評価結果と今後の課題

結 果	理 由
A	・子ども達の元気な笑顔、挨拶に心が癒された。パソコン、動画で子ども達が育まれている様子も分かった。 ・園での取組、目標は大事で、大人でも同じだと思った。 ・評価については、A評価達成に向けた努力が感じられ、先生方のより一層を目指したいという思いも分かった。厳しい中にも温和な動きを大事にしてほしい。 ・楽しんでください。 ・園が取り組んでいくことをもっと発信していくとよい。 ・体験・経験はとても大事なことです。 ・今、保護者の関係づくりが必要である。 親が関わりを持てない状態、コミュニティを築けていない現状がある。忙しさ等様々な課題はあるが、大人が社会の役割を知ることも必要だと考える。（例えば、「役員」を受けて周囲のために動くことで気付くこともある。） ・伝えるべきことは伝えること。時に厳しいことでも伝えないことのデメリットは大きい。

（結果：自己評価は 適正（A） 適正ではない（C） わからない（B） ）